

TOPICS

第147回日本獣医学会学術集会在開催される



第147回日本獣医学会学術集会在日本中央競馬会競走馬総合研究所の司催で、平成21年4月2日～4日の3日間栃木県総合文化センターを中心とした会場で開催されました。

プログラムは獣医学会本部の企画

3つの他、司催企画として講演3演題、市民講座、シンポジウム2つ、公募ワークショップ3つが行われました。また、各学会、分科会企画のシンポジウム、ワークショップ、ポスターセッションも例年同様に開催されました。企画は司催団体を反映してか、馬病関連の演題が例年に比べて多い印象を受けましたが、人獣感染症、動物福祉、野生動物等幅広いテーマについても議論されました。

(研究管理監 八木行雄)

「第8回TXテクノロジー・ショーケースinつくば2009」 で研究領域を越えた交流！

「第8回TXテクノロジー・ショーケースinつくば2009」が、平成21年1月23日(金)、24日(土)の2日間、農林水産技術会議事務局筑波事務所本館で開催されました。こ



れはつくば研究学園都市の研究者・技術者が、年に一度、研究成果、アイデア、技術を持ち寄って披露し、研究領域を越えた交流により新たな発想、ひらめき、ベンチャー事業への契機とすることを目的とした横断的な企画です。我々生産病研究チームは「乳牛の職業病—乳房炎—の早期診断技術の開発」というタイトルで参加しました。牛の職業病である乳房炎を多くの方に知って頂くよい機会となりま

したが、今回は特に『一緒に乳房炎の研究をしませんか?』という研究者をリクルートする絶好の機会としても活用させて頂きました。

乳房炎は長年の研究とは裏腹に年々増加傾向にありますので、発想の転換も必要です。ブースには沢山の方にお立ち寄り頂き、これまでにあまり接点のなかった工学系、生物学系の研究者、さらには機材開発のマーケティングの方とも貴重なディスカッションが出来ました。今後は、本企画で得られた多くの方たちとの交流も深め、より一層乳房炎防除の研究を進めていきたいと思っております。

(生産病研究チーム

主任研究員 林 智人)

平成21年度動物衛生研究所一般公開

動物衛生研究所つくば本所では、第50回科学技術週間(平成21年4月13日～19日)中に行われる筑波農林研究団地一般公開にあわせ、17、18日の両日研究所公開を行いました。



17日(金)は研修棟を中心に所内で、展示パネルによる研究紹介と実演、体験型イベント「家畜の健康診断をしてみよう」、「電子顕微鏡で病原体を観察してみよう」、「獣医カフェ」を楽しんで頂きました。新企画の「獣医カフェ」では、研究者と見学者の気軽な対話の場として、若手研究職員に加え、村上所長と濱岡企画管理部長が対応し好評を得ました。当日はあいにくの小雨ながら600名近くの方々

の来訪がありました。

翌18日(土)は、「食と農の科学館」で、畜産草地研究所との共同で「牧場から食卓へ安全な畜産物を届けるために」を連携テーマにした研究展示を行いました。その他、親子で楽しめるイベントとして、畜草研はバター作り体験・牛乳のクイズと試飲を、当所は一般の方に馴染み深い動物の4つの病気について解説した「ポケット版動物の病気アトラス」作りを行いました。両日も、参加者からは、親切丁寧な説明でわかりやすかった、新たな知識を得られた、直接話が出来て良かった、ウサギはかわいかった、楽しかった等の声が寄せられました。

(情報広報課)